

第4章

教員を志望するのはどのような生徒か

—生徒の学校生活に対する意識に着目して—

第4章では、第3章に引き続き、「高校生の進路意識に関する調査」の分析結果を提示する。具体的には、教職志望者の特徴を学校生活の観点から明らかにする。分析結果としては、①教員を志望する層ほど、学校の授業を受けるのが好きで、また好きな授業があり、授業中に自ら発言する傾向にあること、②教員を志望する層ほど、学校の先生とポジティブな社会関係を結んでいる傾向にあること、③教員を志望する層ほど、教員という職業に不可欠なリーダーシップに関する素質や経験を持っている傾向にあることなどが確認された。

1. 学校文化への適応と教員志望

山陰地域における教員の質確保を目指すうえで、教員養成カリキュラムの改善や教育学部の魅力化といった大学への働きかけは必要不可欠である。加えて、高校段階にある生徒に対して、教職の魅力を発信したり、教育学部で学ぶ学生との交流会を企画したりして、潜在的に教育の担い手を育てることは重要なインパクトを持つ。島根県で実施してきた教育人材育成プロジェクトは、山陰地域における教員の質確保にとって大きな役割を果たすことが期待できる。

本章ではこの取組を補強し今後さらに発展させることを目標に、調査時点で将来就きたい職業として教員を志望していた高校生の特徴を明らかにしたい。その際、本章では「学校文化への適応」という点に着目する。学校という社会空間はその内部に特有の文化形態を保有している。いわゆる学校文化と呼ばれるこの文化形態にどれほど適応しているかは、どのような職業に就くか——どのような社会的地位に配分されるか——に影響を与える。よって以下では、生徒の学校生活に関する項目と教員志望者との関連を探ることで、学校文化のなかでどのようなことを感じ、考え、行動する生徒が、学校文化を再生産する担い手、すなわち教員を志望するのかという問いを明らかにしたい。

2. 教員志望層と学校生活の関連

上記の問いを検証するにあたって、本章では、学校生活について問うた項目群「学校生活について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。(①学校の授業を受けるのが好きだ／②友だちと過ごすのが楽しい／③尊敬できる先生がいる／④テストの成績が気になる／⑤文化祭などの学校行事が楽しい／⑥自分のクラスが好きだ／⑦学校に行くのが楽しい／⑧学校に行きたくないことがある／⑨部活動に参加する／⑩リーダー役割を担当することが多い／⑪授業中に自ら発言することが多い／⑫先生と勉強以外のプライベートな話をする／⑬勉強で分からないところを先生に質問する／⑭先生に褒められる／⑮頭髪、服装、所持品検査で生活指導を受けた／⑯宿題をやらなかった／⑰先生に挨拶をする／⑱先生と話をするのが好きだ／⑲好きな授業がある／⑳学校にいと疲れる／㉑授業がよくわかる)」を使用する。なお、回答は「とてもあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の4件法で聞いているが、本章の分析では「あてはまる(肯定)」と「あてはまらない(否定)」の2件法に再編した。また、本調査では将来希望する職業を多肢選択で回答してもらった(「将来の職業として検討しているものをすべて選択してください。そのなかで(幼・小・中・高・特別支援などの学校の)教員」を選択しているものを教員志望層、選択していないものを非教員志望層と見なし、学校生活について聞いた項目群とのクロス集計を行った。結果は次頁の表4—1の通り。

まず統計的に有意(5%かそれ以下の水準)な結果が出たのが、「①学校の授業を受けるのが好きだ」「③尊敬できる先生がいる」「⑩リーダー役割を担当することが多い」「⑪授業

表 4—1 教員志望層／非教員志望層と学校生活に関する設問のクロス集計結果

	①学校の授業を受けるのが好きだ			②友だちと過ごすのが楽しい			③尊敬できる先生がいる			④テストの成績が気になる			⑤文化祭などの学校行事が楽しい			⑥自分のクラスが好きだ			⑦学校に行くのが楽しい		
	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計
教員志望	142	44	186	181	5	186	142	44	186	174	12	186	173	13	186	175	11	186	165	21	186
度数	76.3%	23.7%	100.0%	97.3%	2.7%	100.0%	76.3%	23.7%	100.0%	93.5%	6.5%	100.0%	93.0%	7.0%	100.0%	94.1%	5.9%	100.0%	88.7%	11.3%	100.0%
調整済残差	3.3	-3.3		0.3	-0.3		2.8	-2.8		0.7	-0.7		1.2	-1.2		0.9	-0.9		1.8	-1.8	
非教員志望	373	215	588	572	18	590	383	204	587	541	47	588	530	58	588	542	46	588	488	99	587
度数	63.4%	36.6%	100.0%	96.9%	3.1%	100.0%	65.2%	34.8%	100.0%	92.0%	8.0%	100.0%	90.1%	9.9%	100.0%	92.2%	7.8%	100.0%	83.1%	16.9%	100.0%
調整済残差	-3.3	3.3		-0.3	0.3		-2.8	2.8		-0.7	0.7		-1.2	1.2		-0.9	0.9		-1.8	1.8	
合計	515	259	774	753	23	776	525	248	773	715	59	774	703	71	774	717	57	774	653	120	773
度数	66.5%	33.5%	100.0%	97.0%	3.0%	100.0%	67.9%	32.1%	100.0%	92.4%	7.6%	100.0%	90.8%	9.2%	100.0%	92.6%	7.4%	100.0%	84.5%	15.5%	100.0%

 $\chi^2=10.575, p<0.01, \varphi=0.117$ $\chi^2=7.982, p<0.01, \varphi=0.102$

	⑧学校に行きたくないことがある			⑨部活動に参加する			⑩リーダー役割を担当することが多い			⑪授業中に自ら発言することが多い			⑫先生と勉強以外のプライベートな話をする			⑬勉強で分らないところを先生に質問する			⑭先生に褒められる		
	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計
教員志望	88	98	186	170	16	186	71	115	186	59	126	185	66	120	186	111	75	186	99	87	186
度数	47.3%	52.7%	100.0%	91.4%	8.6%	100.0%	38.2%	61.8%	100.0%	31.9%	68.1%	100.0%	35.5%	64.5%	100.0%	59.7%	40.3%	100.0%	53.2%	46.8%	100.0%
調整済残差	-0.3	0.3		1.7	-1.7		4.7	-4.7		4.2	-4.2		2.9	-2.9		2.4	-2.4		3.8	-3.8	
非教員志望	285	304	589	510	78	588	123	465	588	103	486	589	144	444	588	293	296	589	219	368	587
度数	48.4%	51.6%	100.0%	86.7%	13.3%	100.0%	20.9%	79.1%	100.0%	17.5%	82.5%	100.0%	24.5%	75.5%	100.0%	49.7%	50.3%	100.0%	37.3%	62.7%	100.0%
調整済残差	0.3	-0.3		-1.7	1.7		-4.7	4.7		-4.2	4.2		-2.9	2.9		-2.4	2.4		-3.8	3.8	
合計	373	402	775	680	94	774	194	580	774	162	612	774	210	564	774	404	371	775	318	455	773
度数	48.1%	51.9%	100.0%	87.9%	12.1%	100.0%	25.1%	74.9%	100.0%	20.9%	79.1%	100.0%	27.1%	72.9%	100.0%	52.1%	47.9%	100.0%	41.1%	58.9%	100.0%

 $\chi^2=14.779, p<0.001, \varphi=0.138$ $\chi^2=8.639, p<0.01, \varphi=0.106$ $\chi^2=17.651, p<0.001, \varphi=0.151$ $\chi^2=22.396, p<0.001, \varphi=0.170$

	⑮頭髪、服装、所持品検査で生活指導を受けた			⑯先生に接遇をする			⑰先生と話をするのが好きだ			⑱好きな授業がある			⑳学校にいると疲れる			㉑授業がよくわかる		
	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計	肯定	否定	合計
教員志望	8	178	186	45	141	186	125	61	186	170	16	186	111	74	185	126	60	186
度数	4.3%	95.7%	100.0%	24.2%	75.8%	100.0%	67.2%	32.8%	100.0%	91.4%	8.6%	100.0%	60.0%	40.0%	100.0%	67.7%	32.3%	100.0%
調整済残差	-1.4	1.4		-0.5	0.5		3.8	-3.8		2.7	-2.7		-2.6	2.6		1.3	-1.3	
非教員志望	43	546	589	153	435	588	302	287	589	492	97	589	414	174	588	365	221	586
度数	7.3%	92.7%	100.0%	26.0%	74.0%	100.0%	51.3%	48.7%	100.0%	83.5%	16.5%	100.0%	70.4%	29.6%	100.0%	62.3%	37.7%	100.0%
調整済残差	1.4	-1.4		0.5	-0.5		-3.8	3.8		-2.7	2.7		2.6	-2.6		-1.3	1.3	
合計	51	724	775	198	576	774	427	348	775	662	113	775	525	248	773	491	281	772
度数	6.6%	93.4%	100.0%	25.6%	74.4%	100.0%	55.1%	44.9%	100.0%	85.4%	14.6%	100.0%	67.9%	32.1%	100.0%	63.6%	36.4%	100.0%

 $\chi^2=6.996, p<0.01, \varphi=0.095$ $\chi^2=7.023, p<0.01, \varphi=0.095$ $\chi^2=14.501, p<0.001, \varphi=0.137$

中に自ら発言することが多い」「⑫先生と勉強以外のプライベートな話をする」「⑬勉強で分からないところを先生に質問する」「⑭先生に褒められる」「⑮先生と話をするのが好きだ」「⑯好きな授業がある」「⑰学校にいと疲れる」の10項目であった。次頁表4-1の網掛けがその10項目である。相関関係を見てみると、「⑰学校にいと疲れる」は負の相関、それ以外はすべて正の相関であった。つまり、教員志望者ほど①③⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯の項目に肯定的に、⑰には否定的に回答する傾向にあることがわかる。

3. 教員を志望するのはどのような生徒か

有意だった項目は、大まかに「授業に関するもの（①⑪⑯）」「先生に関するもの（③⑫⑬⑭⑮）」「その他（⑩⑰）」の3つに分けられる。

授業に関する項目からは、教員を志望する層ほど、学校の授業を受けるのが好きで、また好きな授業があり、授業中に自ら発言する傾向にあることが指摘できる。学校に好きな科目や得意な科目、あるいは好きな先生の授業があれば、生徒は授業を受けるのが好きだと感じるし、また授業にも積極的にコミットし発言をする機会を多く持つと考えられる。生徒が授業に強くコミットメントするかどうかは、教員志望層と非教員志望層との大きな違いの一つである。

先生に関する項目からは、教員志望であるほど相対的に先生とのポジティブな社会関係を結んでいる可能性が指摘できる。生徒は先生を尊敬しているからこそ、勉強の相談のみならず、プライベートな話をするし、そうして先生と話をするのが好きだと感じている。また教員にとっても、生徒との関わりの度合いが大きければ大きいほど彼らを褒める機会は多くあるはずで、生徒との深い関わりが生徒自身の成長を間近で感じ取る契機になり、生徒を褒めるという行為を心理的に行きやすくなる可能性も考えられる。教員が身近なロールモデルとして機能することで、教員と距離の近い生徒の内に「教職に就きたい」という動機付けが発生するという可能性もあるだろう。

その他の項目のうち、⑩は教員という職業の特性にも直結する。教室という空間で教育者として振る舞うことを期待される教員にはリーダーシップが必要不可欠であり、人前で話すことや意見をとりまとめること、ときには摩擦を調停することなど、リーダーとしての素質や能力が求められる。リーダー役割を担当することがあり、これに心理的な抵抗がないほど、教員という職業に「適性がある」と生徒が判断することはあり得る。

また⑰に関しては、負の相関が出ており、教員志望層ほど「学校にいと疲れる」という項目を否定している。教員志望層が、学校の授業が好きであることや、学校の先生と良好な関係性を築いていることを考慮に入れば、彼らは「学校にいと疲れる」とは考えないのである。参考程度ではあるが、「⑦学校に行くのが楽しい」は10%水準で正の有意な傾向を示しており（ $\chi^2=3.348$, $p<0.1$, $\phi=0.066$ ）、教員志望層ほど、学校は「疲れる場所」というより「楽しい場所」だと捉えていると言える。

4. 教員の質確保と教育の質確保の問題

本章では、教員を目指す生徒にどのような特徴があるのかを学校生活に関する項目から明らかにしてきた。まとめると、教員志望の生徒は非教員志望の生徒に比べて、学校の授業に対してよりコミットし、教員とポジティブな関係性を構築し、教員という職業に不可欠なリーダーシップに関する素質や経験を持っている傾向にあった。また、そうであるからこそ学校を疲れる場所とは考えず、楽しい場所だと認識している可能性がある。学校文化のなかでも特に「授業」と「先生」という2つの項目に関してより適合的であること——「授業」や「先生」といった存在に順応すること——が、将来の職業として教員を志望することに大きく影響している可能性が指摘できる。

とはいえ、以上の結果から、学校文化に適応する生徒をもっと増やすべきだ（それによって教員の担い手を確保しよう）という意見を持つことには慎重になる必要がある。もちろん、日々の授業実践をより魅力あるものにしたり、教員が生徒とより積極的に関係を築こうと努めたりすることは、生徒自身にとっても利益が大きい。一方で、既存の学校文化に適応した存在だけを、つまり学校によく適応した「上澄み」だけを擲り上げることが次世代の教員育成の姿となってしまうと、本来多様な存在を尊重し、包摂するはずの学校が一元的な空間に変わりがねない。教員の質と教育の質を混同してしまうと、能力の高い教員による生徒たちの能力開発が「質の高い教育」と見なされてしまう危険すらある。学校には本来、学校を楽しんでいる生徒も、そうでない生徒もいる。そのことを自覚したうえで、それでもなお、いかに共に生きる実践を重ねていくことができるか。教員の質確保は、教育の質確保をめぐる議論ともに検討されねばならない課題である。